

U-net通信

2017年4月
Vol.94

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくのだ

発行:認定NPO法人 地球環境共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫



地域の特性を生かした千葉県のEM活動

取材/大山

千葉県は関東平野と房総半島からなり三方が海に接していて自然もバラエティに富み農業・漁業が全国有数であり、東京湾に接する沿岸部は工業地帯である。県全体としては人口は約630万人で全国上位にランキングされる。東京都に隣接している松戸市・浦安市・市川市等北部は人口が増えているが、館山市・南房総市等南部は人口が減少している。県の中央部には日本の空の玄関である成田空港があり国際都市のイメージもある。今号では成田市及び周辺と館山市においてEM活動で実績を上げている団体の皆さんを中心に、地域の特性を生かした環境改善・樹木の再生・地域活動等について、最新の状況をご紹介します。

▼ EMで再生した吉高の大ザクラ (印西市指定天然記念物)



▲ 安房の海を守り育む会の第3倉庫で石神正義同理事長

▼ EM成田緑の会の皆さん



EMで再生した吉高の大ザクラ

関東では桜は3月末から4月中旬までが見頃とされるが、これは代表的なソメイヨシノのこと。1本の桜としては、おそらく日本一気分で綺麗だろうと評判のヤマザクラが千葉県印西市にあり「吉高の大ザクラ」と呼ばれている。このザクラは樹齢300年以上、幹回り7m、高さ15m、枝の幅30mで須藤謙氏(印旛EMの会)の所有地300坪の土地に毎年4月中旬頃に、ところ狭しと咲き誇る。しかし、満開の見頃が2~3日と短いので、時期になると見物人で近隣地域は大賑わいだそう。

この桜の保存活動を続けるのは「吉高の大ザクラを守る会」と「印旛EMの会」だが、昭和56年に印西市が天然記念物に指定しているので、現在は周辺に人が立ち入れないようにして、大事に育てられている。しかし、22年前頃には、このザクラは写真にあるようにだいぶ弱っていたと言う。そこで、土地所有者の須藤さん



▶ EM投入前の元気がない吉高の大ザクラ

らがEMで再生をしようと決意して地道に手入れし続け、20年前には人が根の上を歩かないようにと立ち入りを禁止して、根の保護に努めEMの投入を継続して現在の素晴らしい姿を保っている。

EM活性液は効くまで使う EM成田緑の会

成田市及び周辺の方々活動するNPO法人EM成田緑の会(藤崎 昇理事長)は平成10年に設立以来各種活動を繰り広げている。会員は80名余りで皆さん元気だと言う。活動日は基本的に第2日曜日であり、座学や活性液・ボカシ・廃油石鹸・ダンゴ作り等実習と成田市内小学校17校のプールへのEM活性液投入、因みに昨年の年間活性液製造量は12,350ℓで、学校プールに投入する3月と9月には合計約6,000ℓと半数に及ぶ、その他は会員への頒布などである。普及活動も活発で、毎年、成田市の公民館祭、産業祭、障がい者施設やショッピングセンターでのボカシなどの販売。また、一般の方への普及のための講座として「やさしいEM教室」を年5回開催し、EMを使った野菜作りとして「成田市生涯大学院」でEM栽培の普及講座も開催している。(次ページに続く)

EM活用で害獣対策に効果

会員の皆さんに、EMをご自身でどのように使用されて成果を出しているかを尋ねたら、農作物栽培では多くの成果を上げている。例えば、成田市が主催する「米の食味コンクール」で当会理事の藤崎敏夫氏が優勝し「成田米」として販売された。美味しくて体に優しいEM無農薬栽培が評価されたのだと思う。成田市及び周辺地域は昔から甘くて美味しいスイカの産地として有名だが、スイカがハクビシンなど害獣に荒らされていたので、EM整流ペットボトルで実験したところ、被害が無くなった。慣行農法では連作障害が出るトマト栽培をEM農法をしている方は、10年以上も同じハウス内で美味しいトマトを作り続けている。

環境浄化活動の取り組みでは、成田市馬洗池の浄化を成田市役所との協働で実験し、いい結果を得ているので、会の最終目標とされる「印旛沼の浄化」に取り掛かれたらと考えているようだ。

会の代表である藤崎理事長は80才を超えて、なお心身ともにお元な様子。しかし、一昨年夏には膵臓に異常ありと診断され、家族はひどく心配され最新の医療を受けるようにと勧められたが、自分が信ずるEMで直そうと決断され、EMXゴールドとEMW活性液で見事に回復された方と聞き、再度の驚き。



▲普及活動の一環「やさしいEM教室」年5回開催



▲毎年10月に開かれる成田市公民館祭に出店して好評なEM野菜

認定NPO法人取得の「安房の海を守り育む会」



▲安房の海を守り育む会メンバーのEMダンゴ作り

房総半島の先端で千葉県県の南に位置し東京湾に面する館山市は温暖で魚や花が豊富で観光地として有名だが、この地域は昔の国名が「安房の国」と称されていた。この地名を採用した「安房の海を守り育む会」は、EMを河川に投入して川と海を蘇らせる実績で、2013年に千葉県から認定NPO法人として認められた日本でも数少ない環境改善団体だ。事業活動がしっかりしていて、多くの賛同者がおり会計処理も完璧であることを証明するものでもある。これには東京都中野区の元副区長や中野サンプラザ社長を歴任した石神正義理事長と設立から現場の熱血リーダーを務める人脈豊富な福原一事務局長の絶妙なコンビによるところが大きいと思う。

毎年、館山市を流れる宇田川・どんどん川・汐入川へのEM活性液の投入量は260tにもなり、市内小学校の児童とボランティアが作ったEMダンゴも25,000個が投入されている。これらの累積と家庭からの培養液や活性液が学校プールに投入されたものを足すので、毎年300tが海に流れ入るので、安房の海の浄化がなされている。その証拠として、きれいな浜にしか育たないとされる絶滅危惧種ナミノコガイが復活し、他の貝類も蘇っている。

館山市は65歳以上の方の人口に占める率が35%を超えるほどだが、会員もやはり高齢になりつつあるので、環境改善事業の他、美味しくて体に優しいEM有機栽培農業に接してほしいとの願いから、実験農場とコミュニティ農場を設けている。ここでは、EM活性液やボカシでの野菜作りが行われていて楽しくEMに接してもらい、そこから雨で流れるEMが近くの用水路に入り、シジミなど淡水生物が復活しつつある。



▲館山市正木岡地域の用水路で育つシジミ

EM発酵米ぬかを活用した酵素風呂「発酵浴いawaii」 稲敷市

成田市の近く稲敷市でひのきパウダー・EM発酵米ぬか等を活用して酵素風呂「発酵浴いawaii」を営み、地域の皆さんの健康増進を図っている。



▲「発酵浴いawaii」で頭だけ出してEM発酵した米ぬか等での入浴風景

U-ネット千葉県世話人の岩井和廣氏は、6年前の東日本大震災で献身的にEMで被災地環境改善活動で貢献。成田国際文化会館で4月15日に開催される「善循環の輪 千葉県の集い in 成田」の実行委員会でアドバイザーも務めている。



障がい者の自立をEMで支援

茨城県石岡市 盲重複障がい者施設「光風荘」

取材／大山

常磐線石岡駅から北西へ約3kmに位置する盲重複障がい者施設の光風荘(須賀田毅理事長)は、石岡市谷向町の1万5千㎡の敷地に建つ視覚障がいと他の障がいを併せ持つ方々が利用する障がい者支援施設。現在の施設利用者は約80名、臨時も含めて70名の職員で運営している。

平成18年に施行された障がい者自立支援法により、障がい者の自立を促す方向に国の法律が変わってきたので、施設でも稼げる作業を取り入れるようになってきた。お金を稼ぐというだけでなく達成感や共感と言った心の豊かさを求めていることだと思う。これにEMが貢献している現場モデルの一つとして光風荘がある。

U-ネット茨城県顧問で「石岡緑の会」会長の鈴木せつ子さんは、この施設創設以来の理事であり、施設へのEM導入を促し、EMボカシやダンゴの制作販売を進めた功労者。3月初旬、鈴木さんのご案内で施設でのEM活用状況取材した。

この施設にはEM培養装置「百倍利器」があり、効率的に大量のEM活性液が作られている。この活性液を利用しての清掃、浄化槽への投入や野菜作りもされているが、注目すべきは販売用で大好評の高品質なEMボカシとEMダンゴ作りがなされていることだ。



▲光風荘玄関で右から光風荘施設長 須賀田滋理氏、社会福祉法人常陸青山会理事長 須賀田毅氏、石岡緑の会会長 鈴木せつ子さん、U-ネット広報担当 大山正治

丁寧な作業で高品質なEMボカシと真ん丸で同じ大きさのダンゴ

ボカシ作りの現場を見せていただいたが、作業の一つひとつがとても丁寧なのだ。ボカシの材料は、米ぬか、もみ殻、EM活性液だが、米ぬかを細かい目のフルイでふるって、より均一に選別されている。もみ殻は薄く広げてもみ殻以外の藁の穂なども取り除き100%に近いもみ殻だけに選別されている。ボカシにするには、これら選別された米ぬかともみ殻にEM活性液を混ぜるのだが、施設利用者の皆さんの丁寧で長い時間をかけての作業で均一に混ぜられた後、樽に詰められ発酵のため数か月寝かされる。そしてJAやホームセンターなどで生ゴミ堆肥化の材料として販売され、環境意識の高い一般の方々に使われて環境保全に役立っているのだ。

EMダンゴも発酵のため寝かせてある場所に案内され話を聞いたのだが、これもまた、とても丁寧な作り方だ。作る際には、1つの重さが240gと計られて、きれいに真ん丸に丸められる。数か月の発酵期間を終えた製品は、白カビで覆われた白い野球ボールのようで、同じ大きさに揃えられている。このダンゴは、環境浄化ボランティア団体に販売され、団体が東京の日本橋川や皇居外濠へ年に数回に分けて投入され、河川や東京湾の環境改善に役立っている。



▲光風荘利用者の皆さんによる手作業で丁寧に長時間かけたボカシ作り

EMで浄化する柏原池公園の池

石岡の自然を守る会

また、光風荘利用者、ボランティア、公園を利用するスポーツ愛好者の方々が構成されている石岡の自然を守る会が石岡市の柏原池公園の池に毎年、春先から晩秋までの期間、毎月1,500個のダンゴと活性液60ℓを投入して環境浄化を進めると共に地域の連携も深めている。

因みに光風荘の新規職員は、仕事が楽しいと言う。事実、途中退職者はほとんどいない。人事管理体制が良いのだろうが、EMは人を穏やかにしてくれるので、これも一因かもしれない。



▲毎月1,500個のダンゴと活性液60ℓを投入して浄化されてきた石岡市の柏原池公園の池



地球環境共生ネットワーク 第 18 回通常総会を開催

取材/針生

2月25日、東京港区の友愛会館にて地球環境共生ネットワークの第18回通常総会を開催した。当日は、全国から正会員255名が出席し、第1号議案 平成28年度事業報告及び収支決算案承認の件、第2号議案 平成29年度事業計画及び活動予算案承認の件、第3号議案 平成29年度監事選任の件の3つの議案を賛成多数で可決した。

全国各地でのEMによる環境活動はじめ6つの重点事業を推進 —平成29年度事業計画—

総会では、平成29年度事業計画として、「見返りを求めないボランティアが世の中を変える」、「あとから来る者のために」を基本理念とし、各地でのEMによる環境活動を推進する基本事業のほか、「善循環の輪の拡大」「広報活動の充実」「復興支援活動の継続」「福祉活動への支援」、日本橋川浄化や湾、湖沼の浄化など「各種プロジェクト支援」の6項目を重点事業として活動していくことが可決された。福祉活動への支援では、今年度から新規事業の一つとして、福祉施設でのEM技術を活用したボランティアを支援するためのプログラムをすすめていく。また、平成29年度監事の選任では、コンプライアンス重視から監事体制の充実が承認され、新監事として二名が選任された。



▲新たな事業計画・活動方針を採択した総会の模様(友愛会館にて)

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

予告

【イベント】EMで発酵BIG BANG in 刈谷

みんなで「発酵」し合える楽しい交流イベント「EMで発酵ビッグバン」が今年も6月に愛知県刈谷市で開催されます。

日程 2017年6月17日(土)

会場 刈谷市総合文化センター 愛知県刈谷市若松町2-104

*詳細時間・内容は、改めてお知らせします。

【開催間近!】善循環の輪 千葉県の集いin成田開催のお知らせ

日時 2017年4月15日(土) 12:30~16:40 (12:00開場)

会場 成田国際文化会館・大ホール 千葉県成田市土屋303

主催 認定NPO法人 地球環境共生ネットワーク/共催:NPO法人 EM成田緑の会

お問い合わせ NPO法人 EM成田緑の会 電話 090-5212-3902

【ご報告】

地球環境共生ネットワークは、この程、東京都より認定特定非営利活動法人として認定いただきました。